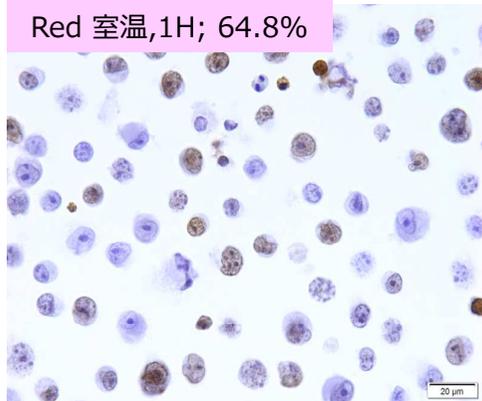


BDシユアパス-LBC保存液を用いた免疫細胞化学染色において、抗原存在部位により適切な保存液の種類や保存温度が異なる

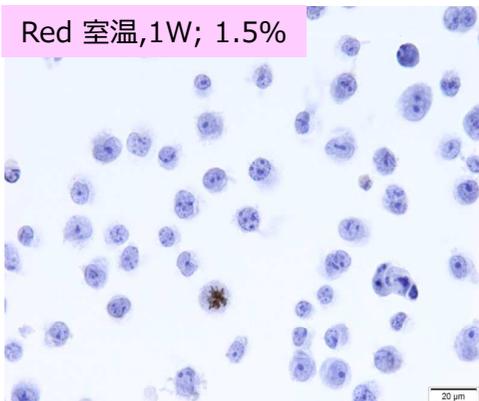
Ki67 (核内抗原)

RedとBlueにおいて、1時間保存が最も高い陽性率となり、その後は経時的に著明に減少した。

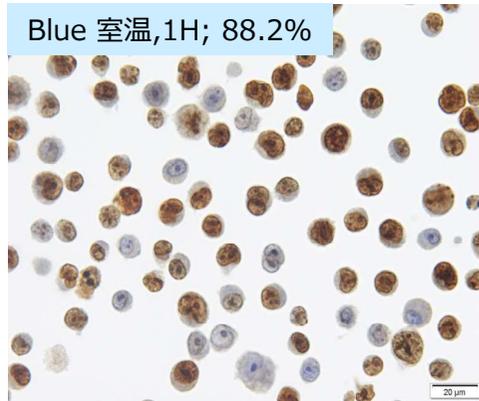
Red 室温,1H; 64.8%



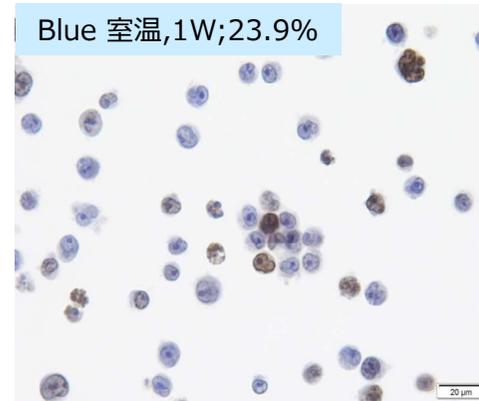
Red 室温,1W; 1.5%



Blue 室温,1H; 88.2%



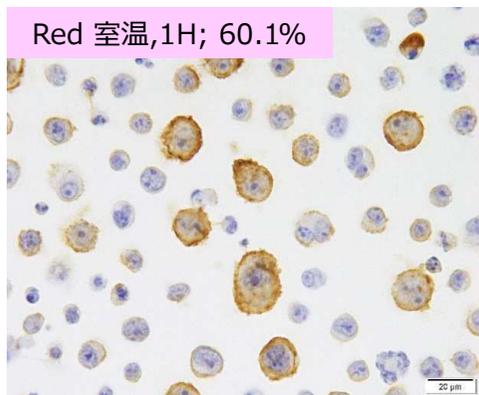
Blue 室温,1W; 23.9%



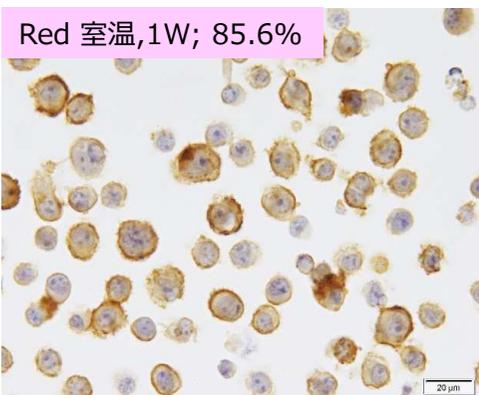
CD20 (細胞質抗原)

RedとBlueにおいて、1時間保存と比較して、全保存期間で高い陽性率を維持した。

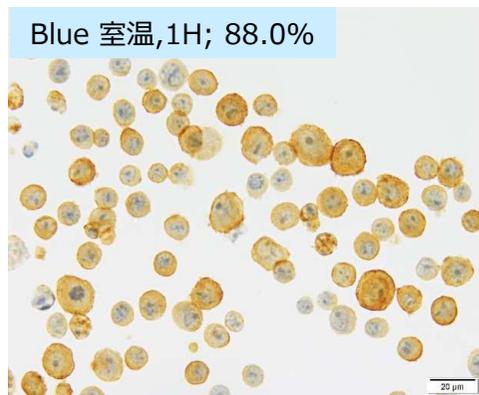
Red 室温,1H; 60.1%



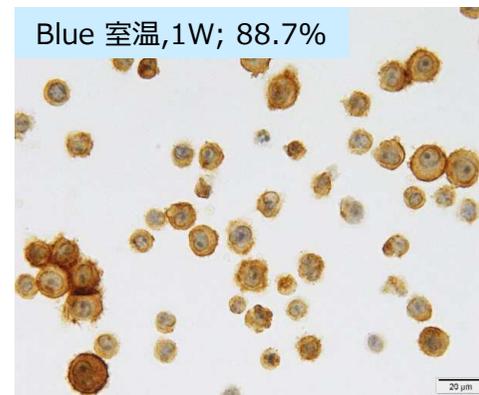
Red 室温,1W; 85.6%



Blue 室温,1H; 88.0%



Blue 室温,1W; 88.7%



保存液の種類によって抗原保持能力に差があること、細胞質抗原よりも核内抗原の方が保存性が低いことが明らかとなった。また、核内抗原は-20℃では長期保存できる可能性が示唆されたため、追加検討を実施する。